

めだかの学校だより

平成 16 年 5 月 1 日
第 44 号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：引佐郡引佐町
東久留女木 472-111
TEL053-545-0381

校長訓話

第四十四回校長 蜂須賀 千賀子

蜂須賀小六に感謝！

「小六は縁に出会って縁に気づかず、中才は縁に気づいて縁を活かさず、大才は袖すりあった縁をも活かす・・・」と徳川幕府 300 年の剣の指南役であった柳生家・家訓にあるように、10 人といれば、10 を聞いても一つも身につかない小才が 3 人、大多数を占める中才が 4 人、1 を聞いて 10 を知る大才が 3 人とに分かれる。3・4・3 サシミの法則である。

縁あつて蜂須賀の姓をいただくことで、歴史の紐を紐解くことが好きな私が、いつも気にかかっている名前が「蜂須賀小六」です。名刺を見て少し年代の高い方ほとんどご存知の名「蜂須賀小六」との縁を聞きたがりです。「もしかしして？」「蜂須賀小六の子孫？」「いえ、はみ出しもので・・・」なんてね。矢作川の橋の袂で寝ている後の秀吉を拾い、後に秀吉の名参謀となって墨俣城の一夜に



しての築城、本能寺の変で織田信長の暗殺の際、中国遠征中の秀吉と策を練って高松の城を明け渡し、謀反の手に奪われることなく見事秀吉を日本の関白まで上らせ、その後は代々阿波の国の城主として江戸時代まで栄え続けた歴史の人物に姓名だけの縁ですが、おかげさまで名参謀の役目は後の世まで英々と思いが受け継がれているようです。

出会いは、健康においても仕事においても夢実現にもチャンスとなって巡り会います。人生の鍵を開けるのは自分自身

です。いつもアンテナ張ってチャンスを生かすよう、生徒の耳と先生の耳持つて接することで素敵な縁とめぐり合うことと思えます。私にとって多くの出会いは私の宝となっています。テレビの水戸黄門との出会いによって起業し、友人のアドバイザーから健康を頂き、姑の介護によって心の勇気を知り、すべて感謝の種となって今も心を揺さぶります。生まれたと時から今の今まですべて出会いからの起こりです。プラスにするもマイナスにするもそれを生かすか生かさないかは常に心も体も健康な状態であるよう勤めることが大事だと思えます。健康面で弱くなっても気があれば乗り越えられることもできるし、気が弱くなっても健康が優れていれば気力を取り戻すこともできると思えます。それを支えてくれるのが人との繋がりでです。

めだかの学校の架け橋を通じて出会うことで気力を頂き、健康を頂き、縁を頂き、感謝を頂く。人生の喜びは一人で楽しむだけでは寂しいですね。多くの出会いによって、いろんな情報を得ること心豊かな成長を歩むことができると思えます。先人の残した足跡、これから残していく足跡すべて意味あることと思えます。今あることに感謝して、今まで以上に出会いを大切に縁を生かして生きていきたいと思えます。宝の宝庫めだかの学校に感謝！！

めだかの学校伝言板

——第 44 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／蜂須賀千賀子
教頭／本間稔
用務員／古田賢二郎
給食係／鈴木哲朗・徳増兼弘・溝口久・萩田博
伊藤英雄・中村明男・大谷香代子
佐野文子・斎藤敏子
渡辺三ツ子（チーフ）
〈学舎〉静岡県引佐郡引佐町東久留女木観音山
日本ボーイスカウト連盟静岡県支部
観音山緑の郷キャンプ場
TEL なし

開校日／平成 16 年 6 月 4 日（金）6:20PM より

受付／山崎鈴・水島加寿代・寺田悦子
齋藤昭（後見人）

〈時間割〉～癒しの心・医薬代替医療～

～視点を換えれば新しい世界が見える～

・一時間目／理科「一時間目から眠らないで・・・」

湯浅明美先生

・二時間目／保健体育「チクリチクリで目が醒めた」

別所慶則先生

・三時間目／音楽「起きたらみんな大声で・・・」

西川裕子先生

※給食の時間～「医療代替給食」～健康は食から・・・～

◇人・ひと・ヒト…だより

○静岡市の米田寛メダカ。大阪で開かれた全国生涯学習の会合に出席。「めだかの学校」の話をしたら三人の方から「資料が欲しい」と。SBS学苑の局長は「めだかの学校」の広報マン？。

○森町の田邊哲メダカ。『貧乏神』で超多忙。三ヶ日町の階堂淑恵メダカ、三ヶ日の女性を連れて三倉分社へ。豊橋市では森田泰子メダカの図書館まつりで聞いた市民が森町まで出掛けるほどの森町ファンに。「田邊さんの貧乏神、聞いたヨ」と引佐町の農業者。いやはや田邊ファンは森町大好きに。ふぐ料理、そば打ちの出前もやっています。ハイ。

○豊田市の堀田望・正子メダカ。横田浩臣メダカらとやっている小麦生塾、40人程の塾生が集まって塾も充実しています。と。養豚業と塾。共に人生楽しんで。

○磐田市の斎藤昭・敏子メダカ。7月22日〜17日間、ドイツ・オーストリアへ。ツアーでなく地図、時刻表などそれぞれの国の観光局から資料を取り寄せての旅。『環境と節約をキーワード』の家庭用の器具を見て来たい。もちろんビールと鉄道と都市と田舎街は欠かせない。気をつけて行つてらっしゃい。

○長野県浪合村の近藤庸平メダカ。自らの古巣とも言える『トンキヤ農園』で、本人の「快気祝い」と、知人の高橋寛治さんの「退職祝い(飯田市役所)」。関京子メダカや松田不秋メダカらも出席して。元気になって良かった、良かった。

た。

○メダカ生、浜名湖国際園芸博で大活躍。なんせ現実の責任者である会長代理は吉岡徹郎メダカ。ポランティアの会長は池谷俊裕メダカ、それを補佐する池田タキ江メダカ。落合啓二メダカは江戸伝統園芸出展、今村純子メダカはハーブで出展、加茂光廣メダカは火金と草笛で…まだまだいろいろな形で関わっている。渋川つづじの伊藤茂男メダカは引佐町のサテライト、事務局のリンデンパウムのバラメダカは個人サテライト。ナンチャッテ。

○5月1日は八十八夜。猫の手も借りたいほどのお茶農家。引佐町の鈴木計芳メダカ新聞に。土や製法にこだわる豊岡村の市川祐一メダカと鈴木正士メダカら。商業用も自家用も、お茶に関わるメダカ生は大忙し。猫の手も借りてまーす、とは。

○みかんの花が…こちらはみかん農家の豊岡村の深沢明男メダカと浜松市の渥美末夫メダカ。今が大事とみかんの香りに包まれながら余念がない。蜜蜂になりたい、とは。

○みかんがあればリンゴ。リンゴと言えば長野県は高森町の橋都秀子メダカ。私もリンゴも花咲り。今年もおいしいリンゴ食べてもらいますヨ、待っててね、とは。

○天竜市の本島慎一郎メダカ。4月23日豊橋市で開かれた県境を越えた連携で地域を活性化、全国に元気をと、初の全国県境地域シンポジウム「21世紀における県境地域の新たな地域づくり」(全国県境地域研究会、東三河地域

研究センター主催)のパネリストに。県境の弊害を挙げ、将来の道州制などを見据えた新しい取り組みや相互連携などについて語る。

○その法人ガラ防愛好会の浜松市の本田量子元メダカ、高木初美メダカ、磐田市の井上啓子メダカら。昔から日本の家庭で食器洗いなどに使われていた和ふきんを使って環境問題に取り組んでいる。原料である綿の栽培を手伝ってくれる人を募集している。いまは和ふきんの普及と70畑以上の綿の種蒔きで大忙し。

○引佐町の石野省三メダカ。この四月より細江町の西気賀小学校へ異動。西気賀幼稚園の園長も兼ねる。このアウドア派校長。早くも子どもたちと行政と協力して『きれいな浜名湖』活動をはじめている。

○佐久間町の小野田宗弘メダカ。念願叶って佐久間高校から天竜養護学校へ。良かったですね。子どもたちに素敵な絵をいっぱい描かせてやって！。

○異動といえば、福田町の川島安一メダカ、中遠農林事務所長から農業水産部農業総室長へ。袋井市の松本芳廣メダカは企画部企画総室技監から農地整備室長へ。浜松市の溝口久メダカは中遠行政センターからその推進室主査へ。県庁へお越しの際はちよつとのぞいでください。

もつともつと伝えたいのですが、今回はこれまで。ごめんね。

◆メダカ春秋

「チンドンコンクールに出場して」今年も富山に行った。チンドン屋の全国大会「全日本チンドンコンクール」に参加するため。バスを貸し切り酒を積み込み、早朝四時半に雄踏町を出発。総勢十七名、若いのは一人もいない、で固めた。富山市主催のコンクールは今回五十回記念大会、素人チンドン屋の「ゆうとう夢ちんどん」は五回目の出場である。コンクール出場の条件はチンドン人数は十人以上。プロのチンドン屋が、口上と演奏演技を審査する。今年には素人が十九組、プロが四十組出場した。プロの演技にはテーマが与えられる、今年「富山ブランド」で富山を宣伝しなければならぬ。地元の人でも気付かない富山の魅力を観光客の前で披露する。チンドン屋の真骨頂である。

「ゆうとう夢ちんどん」初出場の際は「悪の越後屋と黄門様」を演じ見事四位、それ以後毎回四位をキープしている。尤も結果発表は三位までだから皆四位を主張しているだけ。

昨年・一昨年は私と久枝メダカ、八木正子メダカが。今年もは佐藤律子メダカやセミプロのカメラマンも加わった。ステージで私は津軽三味線に海賊の衣装、八木メダカは太鼓でお色気芸者。四位に甘んじている訳が分かる気がする。二日目は富山市内のパレード、数万人の観光客を呼ぶチンドンコンクール最大の花道だ。ミス富山、消防音楽隊を先頭に続く化け物軍団、アルプスの少女ハイジは藤田久枝メダカ、スカトから首を出したパニーは八木メダカ、派手なピエロは佐藤メダカ、私は軍服を着てリュックを担ぎサックスを吹いた。一キロ半の妖怪道中記、到着会場の城址公園は水木しげるの世界である。

帰りは浜名湖が見えるまで化粧と仮装を解かないという規則を作った。サビースエリアでは女装の間が男性トイレに走る。田舎侍が土産を植切る。素浪人は無一文、軍曹はハイジとパニーにアイスを奢る。まるでチンドン屋だとお互いを笑う旅も無事終わる。

(藤田潤吉メダカ)

☆名古屋市のギャラリー彩で「人人展」。浜松市の鈴木真弓メダカが友人の彫作家瀬川明子さんと、4月14日(水)〜23日(金)まで名古屋市のギャラリー彩で「人人展」を開く。毎日新幹線で通うという気の入れよう。ギャラリーに出掛けた名古屋の山根圭二メダカ。「めだかの学校にも『美術学院』をつくり、真弓・明子両教授に鑑賞力をつける授業をやらせてもらうのはどうでしょう。スゴイ、チャーミー、セクシアルアピール?とにかく作品の前に立つたら動けなくなる。事務局長と言えども直立不動に加え、しゃべれなくなるのではないかと感動の態でした。

☆天竜市の石神の里キャンプ場で摘み草クッキングの会と川開き。天竜市の吉林宏メダカ経営の石神の里キャンプ場では4月29日(みどりの日)に、摘み草クッキングの会と川開きを行った。東京から摘み草クッキング主宰の篠原準八先生(元メダカ)を迎えて阿多古川辺りを散策。タンポポ、ヨモギ、イタドリ、ワラビ、フキなどをてんぷらに揚げて摘み草クッキング。準八先生の名調子の説明に参加者は大喜び。川開きも終えて、いよいよ阿多古路は賑やかに。準八先生、翌日は花博見学。夜はてんぷらゴーしぶ川で、地元の人や伊藤茂男メダカ、伊藤八右メダカ、水村春江メダカ、つみくさの元従業員らに囲まれての宴会。「引佐はいい」と準八先生ご満悦。

☆莊川桜との縁。「走らまいか、さくら道マラピック」。時は4月3日(土)、遠州森町文化センター莊川桜前から島田釣苑内莊川桜前までの38Km。この莊川桜、昭和27年に岐阜県の北部莊川に御母衣ダムが建設され、本来なら湖底に沈む四百年の名桜を苦心の末、高台に移植、見事に開花。NHKで全国に放映、有名に。その生命力に感

動した名古屋から金沢を往復するバスの車掌だった佐藤良二さん、太平洋と日本海を結ぶ270Kmの道を桜街道にしようと決意。種子を播き接木をし、その子桜を植え続けること200余。彼は病いに倒れ47才の生涯を終えたという。その桜が森町と島田市にあると聞いた掛川の萩田博メダカ。自慢の足で「マラピック」を企画。森町の莊川桜は、榊原淑友メダカが若かりし頃、佐藤良二さんと出会い実生の子桜を譲り受けたもの。実生21番目で「莊二十一郎」として文化センターの前に植えられている。佐藤良二さんの思いは、名古屋―金沢―さくら道270Kmウルトラマラソンとして受け継がれている。感動屋の萩田博メダカ、遠州森町から島田まで、全て自己管理で13名の参加者と走った、と。

◆事務局だより

浜名湖花博もはじまり、花の便りも多くなりました。皆さんお元気ですか。私事、「さらば男の更年期」の発表が少し早すぎました。事務局の水槽のメダカ達は元気に泳ぎ回っているのに、私は未だしです。

第43回(3月5日)の「めだかの学校」はハブニングが続出。水道水がダメで給食係はポリタンクに料理用の水と飲料水を持参。用務員の村木謙式めだかは仕事との関係で出席できず急遽原邦司メダカが代役。給食係の別所慶則メダカは地域の会合で給食を作った帰校、先生の石野省三メダカは給食と授業をやった帰校。佐野玲子メダカは体調不良で欠席、帰校。先生の指名により原稿を風邪あがりのパラメダカが代読と言った有様。オマケに斉藤敏子教頭先生が張り切った5分の話を超オーバー。授業など全ての時間が後ろに押し詰まると。授業の方は、石野省三メダカの教育論はさすがアウトラップの現職校長。今の教育に反省も含めて一石を投じる発言。いい!!渡辺ミツ子先生、

隣りに立って遠慮気味。またそれが良かったとある生徒の弁。内山ゆき系先生の「環境論」。まさしくストリート。それだけに天竜川の上流の水の問題など迫力があつた二時間目の佐野玲子先生の「ガソリンと闘う」は、伊藤英雄メダカのところへメールで送られた原稿を照井泰子メダカが印刷。出席者に配布してパラメダカが代読。風邪で咳き込むため抑えたしやべりがかえって良かったのか、ガンと戦っている壮絶感がずっしりと迫る。今度の授業は今まで一番良かった」とは伊藤茂男メダカ。給食も美味しかったア。ごちそうさまでした。それだけに給食係の奮闘には感謝!!

第44回の「めだかの学校」は6月4日。校長峰須賀千賀子。教頭本間稔。用務員古田賢二郎。味のある「いぶし銀」トリオ。この三役を交えて3月22日(月)、豊岡村元気村「味里」で19時から職員会議を開く。今回はどうゆう訳か真面目に決まっていこう。この頃は西洋医学に東洋医学を取り入れる病院が多かった」と加藤修一メダカ。「癒やし」の心。医薬代替医療「でいこう」と決まる。東洋医療と言えは針。癒やしと言えはアロマセラピー。歌も癒やし、ゴスペル(福音)なら尚更。「香りで眠って」。針で目が醒めて、起きたら大声出して。「一時間目は、理科」。二時間目は保健体育「チクリチクリで目が醒めた?」別所慶則先生。三時間目は音楽「起きたらみんなで大声で?」西川裕子先生。さあどんな授業になるか、やってみなければ分からないのが「めだかの学校」の素敵なところ。6月の給食は給食係の萩田博メダカが大張り切り。「私の作った玄米を使う。30分噛めば他のものはいらない」とは。玄米のむすび2個と鈴木武史メダカの取り立て茹でジャガと大谷香代子メダカの取り立て大根で?。ゴキも出ないし、健康ともい。まさに「医薬代替給食」。ちよつともい。せめて松本泰榮メダカのデザートぐらいつけてヨ。ワクワクドキドキ?何がとび出すか分からない「めだかの学校」。もしかしたら次回の先生は「あなた」かも?。

◆今回もお礼とお詫びを! 今回こそ早く原稿を書いて早く回して?と思っていたのに、またまた遅れてしまいました。そんな事務局をせかさず待ってくれている伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、本島慎一郎メダカ、服部守孝メダカ、松本芳廣メダカ、照井泰子メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さん、森山知恵子さん、今回もお世話をかけました。今か今かと待ってくださる生徒の皆さんごめんね。第十二期の「めだかの学校」申し込み受付を始めます。第十二期は、平成16年9月1日から平成17年8月31日までです。継続希望者は全員手続きが必要です。手続きを怠ると名簿からはずれて自動退学となります。十二期の申込書を同封しますので、6月4日の開校日に持参、又は8月31日までに事務局あて、千円を添えてお申込みください。申込書には必ずコメントを!。コメントのないものは再度手続きをして頂きます。ご注意ください。(事務局・榊原幸雄メダカ)

◆各地のたよりの掲載について 情報をくたさうい。地域のイベント、あなたの活動など、どしどし送ってください。次回発行日は8月1日です。7月20日までに郵便かFAXで。事務局(FAX 053・545・0381)、メール照井泰子あてEメール/teru@net.ocn.ne.jp メール送信の方は、割付の関係もありますので事務局に「一報を。宜しくお願いいたします。

めだかの学校事務局 〒431-2531 静岡県引佐郡引佐町東久留 留女木472-1111

「リンデンバウム」内 榊原幸雄 ※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。